

第3学年B組 英語科授業案

公開Ⅱ 3 B 教室
授業者 天野 万喜男

1 単元 “Brand Japan” Rice Trading (Japan in the World)

2 単元の構想

(1) 本単元で目指す子どもの姿

子どもは、日本の米が輸入米によって苦境に立たされようとしている一方で、日本米が積極的に海外へ売り出されていることを知り、興味をもち追究を行う。日本米の輸出の現状や日本米の評判について調べた子どもは、自国の農産物のあり方を見つめ直し、外国と協調した貿易について考える。

(2) 本単元で伸ばしたい力

前単元で、子どもは、海外のサーモン養殖業者とのやりとりから、日本人向けのサーモン養殖や、環境を第一に考えた養殖が営まれていることを知り、Intercultural competenceを獲得した。受身形や現在完了形といった新たな表現を、Organizational competenceとして身につけ、英語表現の幅をさらに広げた。

本単元は、日本人が古来より食してきた米を教材とする。日本米は、TPP交渉で日本の農産物重要5項目に挙げられ、安い輸入米との価格差から守られなければならないと言われている。三河産の米を海外へ売り出している団体があること、日本米が和食ブームで世界各国で注目されていること、海外での日本米生産の現状などについて追究した子どもは、Intercultural competenceを高め、国の立場を考えた貿易のあり方を探る。そして、難解な語彙や表現をEBとしてまとめ、Strategic competenceとして身につける。また、これまで単文や複文で表現していたことも、後置修飾の表現をOrganizational competenceとして身につけ、運用できるようにする。

(3) はたらきかけと「学んだこと」を行動につなげる子どもの姿

PROSPECTの段階では、輸入米を提示し、米がTPP交渉における農産物重要5項目に入れられている資料、そして、輸入米と日本米の価格差を示す。子どもは、日本米が貿易品としてどう扱われているか知りたいと考え、調べ始める。

PROGRESSの段階では、子どもは、日本米に対する外国の人の考えを聞き取ったり、日本米の輸出に携わる方の話を聞き取ったりする。農産物としての米の輸出のみに着目している子どもに、加工した米の輸出をしたり、海外で日本米作りに挑戦している方の取り組みを紹介する。そして、“Japan should export rice as brand rice.”と考える子どもの意見をもとに意見交流を行うことで、日本米の輸出のあり方について考えを深めていく。

PROCEEDの段階では、日本米の輸出方法について、外国の人に提案し、意見をもらう。そのうえで、“What is fair trading for each country?”と考える子どもの疑問をテーマにして、意見交流を行う。貿易は、互いの国の利益を考えて行うべきであると改めて気づいた子どもは、日本と世界の貿易と食料生産のあり方考える。

5 単元構想表 (12時間完了)

【第7時終了時】

段階	主なはたらきかけ	<input type="checkbox"/> 思い・考え <input checked="" type="checkbox"/> 「学んだこと」 <input type="checkbox"/> 子どもの行動	英語科で重視する力
PROSPECT	<p>○具体物やデータの提示 子どもに提示する品目を向けるようにする。米と輸入米の値比、米とTPP交渉における重要5項目を提示する。</p>	<p>世界の環境を守るために厳格な基準で行われる魚養殖が大切だ TPP交渉において日本は農業保護のために反対という意見が多い</p> <hr/> <p>日本の米は、どうなってしまうのだろう 1～2時</p> <p>安い輸入品に負けないようTPP交渉でも米は守られている 日本米の高品質、安全性は評価されている。輸出を進めたい アジアだけでなくアメリカやヨーロッパでも米が栽培されている</p> <p>輸入米によって日本米は苦境に立たされるようだ。日本や世界で、米はどのように考えられ、扱われているのか知りたい</p>	<p>英語科で重視する力</p> <p>★Strategic competence ・単元をとおして使用する貿易や農業に関する表現を見通し、EBとしてまとめ、毎時間練習し使えるようにする</p>
PROGRESS	<p>○具体物やデータの提示 日本米のあり方を広げようとするために、加工した米の輸出や、海外で米作りを挑戦している方の取り組みを紹介する</p> <p>○意見交流のテーマ設定 米の輸出品としてのあり方を考えるために、意見交流のテーマを“Japan should export rice as brand rice.”とする</p>	<p>日本米について、国内外の情報を集める 3～8時 (本時8)</p> <p>米の国内消費は落ち込んでいる。輸出を積極的に進めたい 世界で和食ブームが起こる今こそ輸出を増やすチャンスだ 国内消費との関係もある。農家の方にも聞いてみたい</p> <p>日本米の輸出にはいろいろな形がありそうだ</p> <p>日本の文化として輸出し、日本のよさを知ってほしい 日本米の評判は上々だった。よさをもっと知ってもらいたい おにぎりや弁当など和食として輸出する方法もありそうだ</p> <p>それぞれの国が恩恵を受けるような米の貿易ができないか 日本米は外国で人気が高い。ブランド米として売れるはずだ 加工品を受けられない国もある。他により方法があるのか</p> <p>日本米をブランド化して輸出していくためには、もっと互いの国のことを知ったうえで、その方法を考えなければならない</p>	<p>★Organizational competence ・資料や文書に多く使われている関係代名詞や後置修飾について知り、使えるようにする</p> <p>★Intercultural competence ・日本から見た視点だけではなくそれぞれの国がもつ貿易に対する見方を知る</p>
PROCEDURE	<p>○意見交流のテーマ設定 グローバルな視野に立った貿易のあり方を考えるようにするために“What is fair trading for each country?”を意見交流のテーマとする</p>	<p>米の輸出戦略をまとめ、国内外の人から意見を聞く 9～12時</p> <p>TPPで衰退する産業があるのも事実。このままではいけない 案に理解を示してくれた。ただ、それぞれに言い分があった 日本米の海外栽培で雇用が生まれ利益を上げることができる</p> <p>自国の利益のみを追求する貿易のあり方ではもういけない 日本の米と同様に、国によって大事にしたい輸出品がある 日本らしい、技術を中心据えた貿易のあり方を探りたい</p> <p>貿易は、自国の利益のみを主張してはいけい。グローバルな視野で考えていけるようにしたい</p> <p>TPPの他の品目や、世界の国々の貿易について世界の人と語る</p> <p>ウィンウィンの関係を保てるような貿易のあり方を探りたい 自国の産業を大切にするための製品のブランド化を図りたい</p>	<p>★Intercultural competence ・世界的視野から見た貿易のあり方を考える</p>

4 本時の構想 (8/12)

子どもは、日本の米が、TPP交渉における農産物重要5項目に入れられ、海外からの輸入に負けないよう守られていることを知り、米が貿易品としてどう扱われているか調べた。そして、米としての輸出だけではなく、精米器や炊飯器と一緒にした輸出、おにぎりや弁当のように製品にしての輸出、あるいは海外に日本米の農場を作る計画などを知る。日本米の輸出の方法や海外での評判についてさらに調べた子どもの中から、日本米をブランド化して輸出しようという意見が出ていた。そこで、“Japan should export rice as brand rice.”をテーマとして意見交流を行う。

本時は、「売れるかどうかわからない」、「外国の人は高くて日本の米を買えない」といった反対意見、「和食や日本文化を広げるこのチャンスを生かしたい」、「加工品なら受け入れてもらえるだろう」といった賛成意見が、それぞれ出される。ここで、「日本米を押しつけてはいけない。平和的で、正しい貿易がお互いを救う」という考えをもった[黒]の意見を取り上げ、焦点化を図る。子どもは、これまで自国の立場のみを考えた意見をもっていたこと、輸出先のことをあまり考えずに輸出することにばかり重点をおいていたことをふり返る。そして、貿易をするには、互いの国や世界全体のことをよく考えなければならないことを改めて認識し、米の輸出プランをまとめ、外国の人から意見を聞いてみようという計画を立てる。

